

教科によるPDCA

～ 研究テーマ「学び合い、考える力を伸ばす授業を目指して」～

地歴公民科

平成19年度実践報告

1. 平成19年度第2回授業評価（1/28～2/8実施）を受けて（PDCA）

ア. 本年度授業のめあて Plan

本校の個性的教育推進委員会の学力向上の一環として、協同学習を取り入れた授業を地歴・公民それぞれで実施する。1学期2年地理(浅沼), 2学期1年現代社会(安田), 1年世界史 A(渡邊)が中心となり, 他の教員も協力しながら協同学習研究, 指導案作成, そして研究授業を実施する。特に公民科(現代社会)については, 平成19年度高等学校教育課程研究協議会の指導と評価に関する研究に指定されており, 「校内の教科等指導力の向上に向けた組織的な取り組みの工夫改善」をテーマに協同学習研究チームを作り, 論理的で科学的な思考力や表現力の育成を目指し生徒相互の学力差を解消し向上し合える生徒集団を形成する指導と評価を工夫する」という目標を設定し研究を推進する。

イ. 第1回の授業評価を受けて工夫した取り組み Do

1学期に実施した地理の研究授業で協同学習形態の1つのモデルが示された。これを参考にしながら現代社会・世界史においても同様の形態を取り入れながら授業を実施した。世界史については, 個性的教育研究発表会の研究授業に向けて, 渡邊・中室で指導案作成から模擬授業までを試行錯誤を重ねながら行った。現代社会については, 平成19年度高等学校教育課程研究協議会の指導と評価に関する研究の指定を受けた関係で, 個性的教育推進事業と連携しながら安田・久戸瀬で協同学習研究・教材研究から研究授業までを綿密な計画のもとに行った。

ウ. 上記イの取り組みの成果と課題 Check

第2回授業評価に関するアンケートの結果では, 6.授業の中で自らが主体的に活動し, 学ぶことが楽しいと感じる場面がありましたかの項目に対し, 「たびたびあった」が5%(1回)から17%(2回)と上昇, 「時々あった」と合わせると83%(1回)から66%(2回)と下降といった結果になっており, 評価が分かれるところである。また, 21～28の項目については, 21.成績がどのように付けられているか理解していますかの項目についてかなり改善がみられるが, それ以外の項目については, 2・3年次の選択科目が決定している段階の調査であることもあり, 前回調査を下回った結果となっている。教科全体としては, 中高連携等の取り組みはできなかったが, 授業改善の取り組みや評価方法の研究など成果は十分上げたと考えている。

エ. 改善の手だて Action

1年生の現代社会・世界史 A の授業(各2単位)の内容・形態について, 教科全教員で検討する。

2. 平成19年度の教科としての総括

ア. テーマ実現のための指導を振り返って, 学習者が主体的に学びに向かうために行った工夫を具体的に挙げて下さい。

世界史

単元「近代の欧米社会」の「アメリカ大陸」において, グループ学習を取り入れた。ホームルーム

で6班作り、それぞれの班が決められた人種・民族について、その人種・民族の有名人や移民としてアメリカ大陸に渡ってきた理由を調べた。また、調べたことを発表し、互いに評価した。そして、自分たちが調べた人種・民族との歴史的背景の違いを学び、現代のアメリカにおける社会における移民の意義を考えた。

地理

二つの単元でグループ学習を取り入れた。4人の班を作り各班で役割分担をしたうえで、班ごとに異なるテーマについて研究・発表させた。4人でさまざまな教材を調べ、お互いに教えあい学びあいながら、研究を深めた。また発表会で互いに発表を評価させた。取り組んだ単元は、「小地形の地形図読図」と「ケッペンの仮想大陸の気候模式図」である。

現代社会

平成19年度高等学校教課程研究協議会の指導と評価に関する研究で、「校内の教科等指導力の向上に向けた組織的な取り組みの工夫改善」を行った。実施体制作り、「協同学習」の学習会を行った。また研究授業では、「現代の民主政治と民主社会の倫理—現代の国家と民主政治—」の単元を協同学習のジグソー2を実施した。

イ. テーマ実現のための指導の結果として、どのような変化が見られたかを具体的に書いて下さい。

世界史

学習後の授業アンケートでは、大半が楽しく、積極的に学習できたようである。しかし、深い理解は自分たちが調べた、人種・民族の歴史にとどまってしまう。この授業を実施した期間での考査は、クラス間の平均点の差は縮まり、（低い平均点のクラスが高くなり、平均点の差が縮まったと考えれば）世界史に対する関心が少しは高まったのではないかと思う。

地理

学習後の授業アンケートでは、この授業に積極的に取り組んだ73%—まあまあ積極的に～26%、読図がよくわかるようになった22%—なんとなく～76%で、この割合は成績上位層と下位層で大きな差異はなかった。授業の感想も大半が評価するものであった。この単元の考査問題は、他の問題にくらべて明らかに成績による得点の差が少なかった。

現代社会

協同学習を取り入れることで、生徒自らが学び、学び合う態度が育成できたと考えられる。

平成20年度実践報告

1. 第1回研究授業（実施中心日6月26日）を受けて

- ア 日時 6月27日（金）
- イ 場所 3年3組教室
- ウ 指導者 中室 智彰 教諭
- エ クラス 3年3組
- オ 単元 第11章 欧米における近代社会の成長 2. アメリカ独立革命
- カ 協議会での助言・感想

(1)授業者のコメント

生徒は楽しく、一生懸命に取り組んだ。中学校でグループ学習を経験している生徒が多く、班作りや班の移動・活動がスムーズに進行した。本校教諭が生徒の班に参加して、助言する形式をとった。生徒は生き生きと学習をしていた。

(2)参観者の意見

協同学習のジグソー2を実施。生徒は、大変に生き生きと楽しく学習をしていた。研究授業として充実していた。確認項目を設定していたことは、班別生徒の調べてくる内容をチェック出来るので良かった。しかし、課題としては、この教授方法を年間通して実施した場合に、学習の定着が出来るのか疑問を感じる。回数は学期に1度程度で実施すると良いと思う。班内で内容を理解できている生徒とそうでない生徒がいるため学力差が出るのではないか。一定レベルの学力を維持するためには、一斉授業形式の方が良いのではないか。研究授業の前に基礎的授業を実施していることは、全体的に授業の進度が遅れるのではないか。調べてきている生徒の分量が多くポイントが分かっていないのではないか。また、学び合いは数学・理科が実施しやすいと考えるが、地歴公民でも、学び合いを生かせる項目があると考えるので、実施して効果のある単元や内容を取り上げると良いのではないか。

2. 第1回授業評価(6/26~7/18実施)を受けて(PDCA)

ア. 前年度の成果と課題(本年度授業のめあて) Plan

〈成果〉(1)前年度に協同学習を取り入れた研究授業を地歴・公民それぞれで実施した。前年度を検証しつつ今年度も継続実施する。1学期3年世界史B(中室),2学期2年地理B(田中),1年現代社会(岡田)を研究発表者とし、地歴公民科教員が協力・支援する体制をつくる。(2)論理的で科学的な思考力や表現力を育成する指導の開発。

〈課題〉(1)協同学習を実施すると学習効果の上がる科目の分野を開発する。また、常に実施するのではなく、学期に1回程度の導入が理想的であるという考えに立つと、平常時の授業改善をどのように行うかが課題となる。(2)「学び合い」と「考える力」については、「学習形態」と「思考力の育成」との関連性の明確化、及び思考力を育成する学習形態の研究が必要である。

イ. 取り組みの方法 Do

(1)協同学習を取り入れた研究授業(1学期3年世界史B)では、ジグソー2を実施した。

〈4人のオリジナルグループを作る。4人×6チーム〉→〈4人で分担して調べる。〉→〈他のグループと一緒に専門家チームを作り、学習し合う。4チーム〉→〈オリジナルチームへ戻って、学んだことをメンバーに相互に教え合う。〉ジグソー2では、各自が割り当てられた以外の全分野について学習してきている。〈改良点〉専門家チーム(4チーム)が検討する課題を3~4点、生徒に示すことで専門家チームの学習内容の統一を図った。〈課題〉専門家チームの「学び合い」における教師の指導・助言が必要である。生徒の伝達内容をチェックして誤った知識を拡大させない。また、文章を伝えることに集中して内容を理解できていない場合があるなど、支援のための教師は複数必要であると考えられる。

ウ. 第1回授業評価の結果分析と課題 Check(平成19年度3学期との比較)

〈地歴〉(1)上昇項目:「先生の授業の速さ(進め方)は適切ですか。やや速い」(7%→17.7%)。

「授業の中で自らが主体的に活動し、学ぶことが楽しいと感じる場面がありましたか。たびたびあった+時々あった」(66%→74.6%)。「授業に積極的に参加していますか。いつもしている+だいたいしている」(78%→83.4%)。「課題を自分のものとして取組、実力を伸ばすのに役立っていますか。いつもしている+だいたいしている」(69%→79.3%) (2)下降項目:「授業中の先生の説明はわかりやすいですか。とてもわかりやすい+だいたいわかりやすい(86%→79%)」。(3)特記項目:「授業の予習はしていますか。たまに予習する+全く予習しない」(95%・94.6%)。「授業の復習はしていますか。学力テスト前にする+全く復習はしない」(81%・68.5%)。【まとめ】:授業は楽しく、積極的に参加し、課題の取組もまじめであるが、予習をせず、復習は学テ前にする生徒が多い。また、授業の速度がやや速く感じている生徒がふえ、教師の説明がわかりにくくなっている生徒が少し増えている。

〈公民〉(1)上昇項目:「授業中の先生の説明はわかりやすいですか。とてもわかりやすい+だいたいわかりやすい」(70%→81%)。「先生の授業の速さ(進め方)は適切ですか。遅い+適当である」(70.5%→94.7%)。「先生の授業に対する熱意・意欲・工夫を感じますか。大いに感

じる＋感じる」(80.7%→86.8%)。「授業を通してこの科目に関する学習意欲や学力が向上してきていると思いますか。とてもそう思う＋そう思う」(59%→74%)。「授業の中で自らが主体的に活動し、学ぶことが楽しいと感じられる場面がありましたか。たびたびあった＋時々あった」(33%→67.1%)。「成績がどのように付けられているか理解していますか。理解している＋だいたい理解している」(65%→80.2%)。「授業を受けた際の疑問点は、解決できていますか。いつもしている＋だいたいしている」(57%→65.8%)。(2)下降項目：特になし。(3)特記事項：「授業の予習はしていますか。たまに予習する＋全く予習はしない」(98%・94%)。「授業の復習はしていますか。学力テスト前にする＋全く復習はしない」(96%・85.5%)。【まとめ】：授業はわかりやすく、授業の速さも適当である。教師に熱意が見られ、生徒は学習意欲が向上し、主体的に活動し、学ぶことが楽しい。一方で地歴と同様に、予習をせず、復習は学テ前にする生徒が多い。

エ. 2学期に向けての改善の手だて Action

- (1)研究授業では、平常授業における「学びあい」を含めて、協同学習を取り入れた授業を継続し、効率的な学習方法を工夫する。また、論理的で科学的な思考力や表現力を育成する学習のあり方を開発する。
- (2)第1回授業評価の結果より、生徒の授業に対する満足度は高いが、平常授業の予習・復習ができていないため増やす工夫をする。
- (3)継続実施していることであるが、成績の付け方を連絡し理解させる。科目の学習単元の目標や評価規準の4観点を提示して、4観点到留意した授業展開・学力テスト問題の作成を継続する。

3. 第2回研究授業（実施中心日10月7日）を受けて

ア 日時 10月7日(火)第5校時
イ 場所 第2地歴公民教室
ウ 指導者 田中 完三 教諭
エ クラス 第2学年5組
オ 単元 第I部 自然と生活 1章 自然環境と生活
カ 協議会での助言・感想

(1)授業者のコメント

本校の第2回実力テストの問題を生徒に解説させることにより、生徒相互の学び合いや復習を行った。生徒2人をペアにして解答例を予め作成させて、生徒の前で発表させた。生徒の説明は、一生懸命に取り組み、中には詳しすぎる説明もあり、大問1問で終わってしまった。準備の時間があれば、ワークシートを配布して、予め解答を生徒に配布しておく、より効率的であった。学び合い学習がテストの解説で実施できることは手応えを得たと感じている。

(2)参観者・アドバイザー・スタッフの意見

実力テストの解答作成を2人組のペアにして、自分達が解答を作り、教卓で説明する。学び合いの新しい可能性を見た。実力テストの解答作りなので考えるところが多く良かった。今後の工夫としては、①ワークシートを利用して、生徒の自己評価を取り入れる。②単純な問題は解答しないで、考える問題のみをピックアップする。③生徒は解説を聞くだけとなり、やや生徒は退屈になったので、改善策として、もう少し多い問題を与えて4人で話し合わせ、別解を作るとか、その場で自分の解答を発表し合うと良かった。

授業中での学び合いは少なく、発表のところで学び合いがあった。4人グループで数問を与えて、全員に発表させる方法もある。学び合いの観点からグループを工夫し、グループ内で教え合える構成にすることも必要である。生徒は、講義形式とは違って生き生きとした表情であった。通常の授業以外で学び合いを取り入れた実践として評価できる。

(3)生徒の意見・感想（もしあれば）

生徒は、解説作りに一生懸命となって、楽しく積極的に授業に取り組めた。